

織田鳥類観測ステーションに おける標識調査結果

林 武 雄

丹生郡織田町笈松地籍、織田町県民いこいの森に建設が進められていた環境庁の1級渡り鳥観測ステーションは、昭和49年9月17日無事竣工し昭和49年度の調査が実施された。

このたびその調査結果が、委託先である財団法人山階鳥類研究所から県に通報されたので、その概要と記録された稀少鳥類を紹介する次第である。

貴重な資料の収集に尽力された研究員各位と資料を提供された山階鳥類研究所に対し謝意を表したい。

なお、昭和48年度の調査の結果等については本誌第21号を参照していただきたい。

記

1. 調査期間

昭和49年10月6日から同年11月9日まで(延35日間)

2. 調査地

丹生郡織田町笈松地籍、標高約480メートルの山林。(織田山鳥類観測ステーション敷地内)

3. 調査内容

標識調査による。

4. 調査従事者

財団法人 山階鳥類研究所(東京)

研究員 真野 徹, 黒沢 収

嘱託 阿部真哉 の各氏

5. 調査結果

49種、4,753羽に標識が付されて放鳥された。

(放鳥の内訳) 新放鳥数 4,710羽

再放鳥数 43羽

* 昭和48年度の調査では、38種、3,565羽が記録された。

6. 記録された種類と数

カシラダカ(1,870) アオジ(742) メジロ(536) シロハラ(252)

メボソムシクイ(旧称ムシクイ)(243) シジュウカラ(183) マミチャジナイ(171)

ツグミ(132) アトリ(131) ウグイス(97) エナガ(42) ヒヨドリ(40)

ルリビタキ(31) ミヤマホオジロ(31) ホオジロ(29) ノゴマ(20) ウソ(17)

クロジ(15) クロツグミ(12) キビタキ(12) カケス(11) ムギマキ(9)

ノジコ(8) ヤマガラ(7) モズ(7) ヒガラ(7) シメ(7) ツミ(5) ジョウ
ビタキ(4) ベニマシコ(4) コゲラ(3) ヤブサメ(3) アカハラ(3) ヤマヒバ
リ(3) オオマシコ(3) ピンズイ(2) オオルリ(2) キマユムシクイ(2) コマ
ドリ(2) キクイタダキ(2) マミジロ(1) キセキレイ(1) コノハズク(1)
オオコノハズク(1) カワラヒワ(2) キレンジャク(1) アカマシコ(1) チヨウセ
ンメジロ(1) スズメ(1) 合計49種 4,710羽(新放鳥) * 図表参照

7. 記録された稀少鳥類

(1) チヨウセンメジロ (*Zosterops erythropleura*)

メジロ科の1種で、日本では初記録である。シベリアに分布し、ウスリー地方に繁殖が確認されており、中国を通ってマレーシア方面に越冬することが知られている。しかし、国外でも記録の少ない鳥であるらしい。(阿部真哉氏の教示による。)

外見はメジロと殆んど変らないが、眼瞼の白色輪は顕著で、腮および喉の黄色はメジロよりも鮮やかな黄色、上胸は銀白色の羽毛があり、胸腹部は純白の美しい鳥である。

この鳥の確認により、日本産の鳥類は491種となる。

(2) キマユムシクイ (*Phylloscopus inornatus*)

ヒタキ科の1種で沖縄地方に大陸から冬鳥として渡来するが記録は少ない。また小笠原にも観察記録があるが、それ以外の記録としては、山口県角島(1966年4月27日)の1例のみ、織田山では昨年1羽と本年2羽が続いて記録されたことは意義深く、研究員の話では、シベリア大陸から中国東南部に渡るもの一部が日本列島をかすめて通るのではないか、と推定している。

センダイムシクイよりも小さく、眉斑の他に淡い頭央線をもち、翼には2条のはっきりした淡色斑がある。

(3) ヤマヒバリ (*Prunella montanella*)

イワヒバリ科の1種、日本には迷鳥または、稀な冬鳥として渡来する。過去に北海道、本州(秋田、岩手、長野、鳥取)に記録がある。

(4) アカマシコ (*Carpodacus erythrinus*)

アトリ科の鳥、過去に本州(栃木、新潟、京都)伊豆諸島(八丈)にのみ記録がある迷鳥で稀な鳥である。

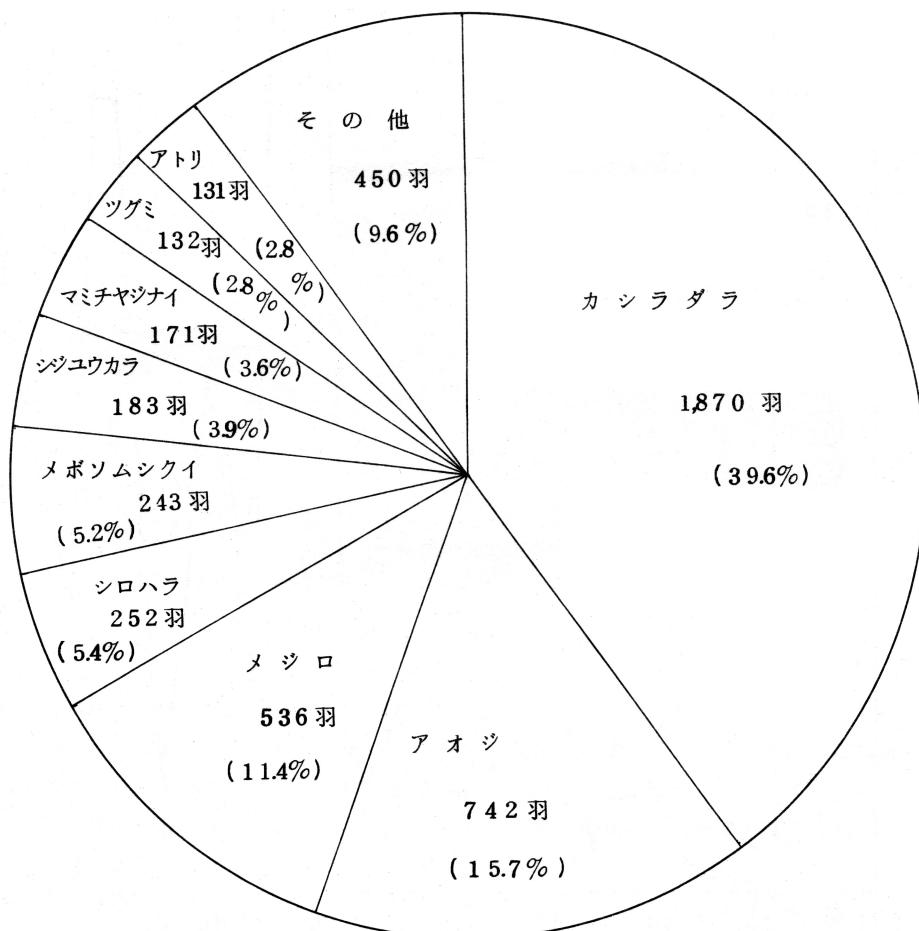
(5) オオマシコ (*Erythrina rosea*)

アトリ科の鳥、北海道以外は少ない。特に中部以南の記録は稀である。

* 参考文献 日本鳥類目録(1974)

(福井県自然保護課鳥獣保護係長)

標識された鳥類内訳



観測地における標識の状況

1974 (6.0 ct ~ 9.Nov)

